



平成 26 年 2 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 25 年 7 月 10 日

上場会社名 ディップ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2379

URL <http://www.dip-net.co.jp>

代表者(役職名) 代表取締役社長兼 CEO (氏名) 富田 英揮

問合せ先責任者(役職名) 執行役員 管理本部長

(氏名) 渡辺 永二

(TEL) 03(5114)1177

四半期報告書提出予定日 平成 25 年 7 月 12 日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無

四半期決算説明会開催の有無 : 有・無 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成 26 年 2 月期第 1 四半期の業績 (平成 25 年 3 月 1 日～平成 25 年 5 月 31 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26 年 2 月期第 1 四半期	3,097	43.1	81	—	72	—	11	—
25 年 2 月期第 1 四半期	2,163	△16.0	△212	—	△210	—	△131	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26 年 2 月期第 1 四半期	1.09	1.08
25 年 2 月期第 1 四半期	△11.64	—

平成 24 年 9 月 1 日を効力発生日として、普通株式 1 株につき 100 株の割合で株式分割を実施しております。そのため、1 株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益につきましては、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算出してあります。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26 年 2 月期第 1 四半期	6,454	3,385	52.4
25 年 2 月期	5,830	3,459	59.3

(参考) 自己資本

26 年 2 月期第 1 四半期 3,385 百万円

25 年 2 月期 3,459 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25 年 2 月期	—	0.00	—	8.00	8.00
26 年 2 月期	—	—	—	—	—
26 年 2 月期(予想)	—	0.00	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有・無

3. 平成 26 年 2 月期の業績予想 (平成 25 年 3 月 1 日～平成 26 年 2 月 28 日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 2 四半期(累計)	5,824	32.9	101	—	80	—	9	—	0.86
通期	11,869	29.8	790	218.1	747	220.0	374	506.6	33.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有・無

業績予想の修正については、本日(平成 25 年 7 月 10 日)に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有・無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無

② ①以外の会計方針の変更 : 有・無

③ 会計上の見積りの変更 : 有・無

④ 修正再表示 : 有・無

(注)詳細は、【添付資料】5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年2月期1Q	12,372,000株	25年2月期	12,362,000株
26年2月期1Q	1,326,700株	25年2月期	1,326,700株
26年2月期1Q	11,035,409株	25年2月期1Q	11,300,568株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、平成25年7月11日(木)に当社ホームページに掲載予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	4
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済情勢は、新政権発足後の経済対策や金融対策などが好感され、円安・株高が進行し企業の業績見通しも回復基調を示す等、緩やかに持ち直しております。しかしながら、実体経済への波及には時間を要すると見られるほか、5月下旬以降、株式市場の乱高下が続く等、安定性を欠いた状態となっております。また、海外経済の不確実性による下振れリスクも引続き懸念され、その先行きは不透明な状況が続いております。

国内の雇用情勢につきましては、完全失業率(季節調整値)は4.1%となり、前月と同水準で推移し、5月の有効求人倍率(季節調整値)は0.90倍となり前月から0.01ポイント上昇し、回復基調が継続しております。

このような環境のなか、当第1四半期累計期間より、執行体制及び戦略推進力の強化を目的にCEO・COO体制へと組織体制を刷新し、業績の拡大を目指してまいりました。また、営業力強化を図り、従来の事業領域別カンパニー制から機能別本部体制へと移行いたしました。

メディア事業におきましては、顧客セグメント別事業本部体制とし、顧客のニーズに沿った提案やきめ細かい営業活動により、さらなる成長を目指してまいりました。加えて、同事業におけるメディアプロデュース・マーケティング機能を商品開発本部へ集約し、新機能及び新サービスを提供開始するとともに、過去にない積極的な商品プロモーションを推進することにより、商品力の強化に取り組んでまいりました。

エージェント事業におきましても、看護師集客力向上のための新たなサービスを展開し、事業の強化を図ってまいりました。

また、社会貢献活動の一貫として、5月31日より、当社サービスによる従業員募集時の時給アップを支援する『レイズ・ザ・サラリーキャンペーン』を実施しております。同キャンペーンは、日本銀行が発表した物価上昇率目標2%の導入に先行し、正社員の給与を上げる企業は僅かながら出ているなか、アルバイト・パート等の非正規社員の給与に関しては、それに遅れをとっている状況であることから、当社媒体への求人広告の掲載の際、当社採用コンサルタントより、お取引先に対して従業員募集時の給与アップについて交渉し、ご賛同いただいたお取引先の求人情報には『Raise the Salary』のマークを表示し、給与が上がっていることを求人広告サイトにてアピールするキャンペーンとなります。これにより、日本経済の活性化を支援し、社会的な問題解決の一助となるよう取り組んでおります。なお、本取り組みは看護師人材紹介事業においても同様に実施しております。

メディア事業におきましては、大規模広告宣伝活動が奏功し、売上高は順調に推移いたしました。また、エージェント事業におきましては、入職者や人事異動が最も多い4月に売上高が偏重する傾向にあります。

これにより、当第1四半期累計期間の売上高は30億97百万円(前年同四半期比43.1%増)となりました。

営業損益及び経常損益につきましては、営業力強化施策としての新卒社員の大型採用に伴う人員投資及び主要サイトにおける認知度促進のためのTVCFをはじめとした積極的な広告宣伝投資により費用が増加したものの、売上高の堅調な推移により、営業利益は81百万円(前年同四半期は営業損失2億12百万円)、経常利益は72百万円(前年同四半期は経常損失2億10百万円)となりました。なお、四半期純利益は11百万円(前年同四半期は四半期純損失1億31百万円)となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

①メディア事業

メディア事業におきましては、求人広告事業である「バイトルドットコム」、「はたらこねっと」、「ジョブエンジン」及び「その他」事業を運営しております。

「バイトルドットコム」におきましては、従来より提供している『応募バロメーター機能』や、『動画情報機能』に加え、アルバイトを探しているユーザーの約63%（※）がアルバイト先の制服が気になるとの回答結果を受け、新たに『制服閲覧機能』を搭載するとともに、『バイトル制服なりきりカメラ』アプリのサービスを提供開始し、勤務先の“見える化”に向け取り組んでまいりました。加えて、仕事内容を分野別に掲載した新サイト、「カラーバイトル」を開始し、働きたい分野が特定されている志向性の高いユーザーに対して各分野で豊富な情報を揃え、媒体力の強化を図ってまいりました。（※当社実施アンケートより）

さらに、当社イメージキャラクターである女優の上戸彩さん出演のTVCF放映の他、新たにアーティストのKREVA（クレバ）さんを起用したTVCFを放映し、新サービス及び新サイトの大型プロモーションを実施いたしました。また、主要大学においてオリジナルキャラクターである『バイトルズ』のストラップを配布する等の販売促進活動により認知度の向上及びユーザー基盤の強化に努めてまいりました。

「はたらこねっと」におきましては、スマートフォンでの『前回の検索条件からさがす機能』として2回目のサイト訪問時に、トップページから前回訪問時の最終検索条件を一度の操作で再検索できる機能を実装した他、『応募時自動ログイン機能』を実装し、検索機能の充実及び応募時の機能を改善することで利便性向上に努めてまいりました。

また、応募獲得の効果が高いWEB広告を中心に広告宣伝活動を展開し、認知度の向上及びユーザー基盤の強化を図ってまいりました。

上記施策により媒体力が向上したことに加え、営業活動においては、顧客セグメント別組織によるきめ細かい販売活動の実施により、当セグメントにおける売上高は22億21百万円（前年同四半期比11.0%増）となりました。セグメント利益は大規模広告宣伝活動を実施した影響により1億39百万円（前年同四半期比68.4%減）となりました。

②エージェント事業

エージェント事業におきましては、「ナースではたらこ」サイトへご登録いただいた転職を希望される看護師へ、医療機関を紹介する人材紹介事業を運営しております。

当第1四半期累計期間において、5月12日の「看護の日」にあわせ、看護師のための会員制特典割引サービス『パンダクラブ』を開始いたしました。同サービスでは、セミナー開催や学習コンテンツの無料提供等、転職以外の場面において看護師を支援するとともに、応募数増加に向けた基盤強化を図ってまいりました。さらに、平成25年4月に発表された楽天リサーチによる看護師人材紹介顧客満足度ランキングにて第1位を獲得したことから、キャリア・アドバイザーによる質の高い転職相談の実施を徹底することにより、求職者の満足度向上に努めてまいりました。

また、看護師人材紹介事業では例年4月の入職が最も多いことから、当セグメントにおける売上高は8億75百万円(前年同四半期比441.9%増)、セグメント利益は3億16百万円(前年同四半期はセグメント損失2億78百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期累計期間末における資産は、前事業年度末と比較し6億24百万円増加し、64億54百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加4億83百万円、売掛金の増加1億10百万円によるものであります。

負債につきましては、前事業年度末と比較し6億98百万円増加し、30億69百万円となりました。主な要因は、未払金の増加6億74百万円及び借入金の返済による1年内返済予定の長期借入金の減少1億74百万円等によるものであります。

純資産につきましては、前事業年度末と比較し、74百万円減少の33億85百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少76百万円によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向を踏まえ、平成25年4月11日の決算短信で公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(平成25年7月10日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当第1四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期会計期間 (平成25年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,981,322	2,464,989
売掛金	1,080,187	1,190,219
仕掛品	1,592	1,009
その他	341,814	445,093
貸倒引当金	△88,625	△101,323
流動資産合計	3,316,292	3,999,987
固定資産		
有形固定資産	306,970	334,419
無形固定資産		
ソフトウェア	1,651,895	1,582,896
その他	2,208	82,692
無形固定資産合計	1,654,103	1,665,588
投資その他の資産		
その他	478,658	398,232
貸倒引当金	△8,352	△6,884
投資その他の資産合計	470,306	391,347
固定資産合計	2,431,380	2,391,355
繰延資産		
開発費	82,539	63,492
繰延資産合計	82,539	63,492
資産合計	5,830,212	6,454,835
負債の部		
流動負債		
買掛金	121,972	119,346
短期借入金	1,000,000	1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	446,700	272,000
未払金	314,628	989,418
未払法人税等	72,568	85,499
返金引当金	40,302	84,514
資産除去債務	26,211	—
その他	232,291	356,353
流動負債合計	2,254,673	2,907,131
固定負債		
資産除去債務	87,755	97,005
その他	28,452	65,663
固定負債合計	116,208	162,668
負債合計	2,370,881	3,069,800

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期会計期間 (平成25年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,081,200	1,082,200
資本剰余金	1,131,709	1,132,709
利益剰余金	1,741,535	1,665,239
自己株式	△495,113	△495,113
株主資本合計	3,459,330	3,385,034
純資産合計	3,459,330	3,385,034
負債純資産合計	5,830,212	6,454,835

(2) 四半期損益計算書
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
売上高	2,163,956	3,097,637
売上原価	337,243	382,341
売上総利益	1,826,713	2,715,296
販売費及び一般管理費	2,039,387	2,633,427
営業利益又は営業損失(△)	△212,674	81,869
営業外収益		
受取保険金	390	749
その他	13,843	576
営業外収益合計	14,233	1,326
営業外費用		
支払利息	4,600	3,066
シンジケートローン手数料	5,474	6,550
その他	1,656	1,185
営業外費用合計	11,731	10,802
経常利益又は経常損失(△)	△210,172	72,393
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△210,172	72,393
法人税、住民税及び事業税	2,819	79,755
法人税等調整額	△81,489	△19,348
法人税等合計	△78,670	60,406
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△131,502	11,986

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
	メディア事業	エージェント事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	2,002,373	161,583	2,163,956	—	2,163,956
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	2,002,373	161,583	2,163,956	—	2,163,956
セグメント利益 又は損失(△)	439,584	△278,344	161,240	△373,914	△212,674

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△373,914千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、これまでセグメント区分を「バイトルドットコム」「はたらこねっと」「ナースではたらこ」「ジョブエンジン」「その他」としておりましたが、当第1四半期累計期間の組織変更に伴い、従来「バイトルドットコム」「はたらこねっと」「ジョブエンジン」「その他」としていた区分を「メディア事業」に統合し、「ナースではたらこ」を「エージェント事業」に変更しております。これに伴い共通経費の配賦についても一部見直しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
	メディア事業	エージェント事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	2,221,941	875,695	3,097,637	—	3,097,637
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	2,221,941	875,695	3,097,637	—	3,097,637
セグメント利益 又は損失(△)	139,021	316,914	455,935	△374,066	81,869

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△374,066千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。